

ニュース和歌山 2021 年 9 月 25 日号の 「おしえて! マイドクター Q&A」に掲載。

Q

脳梗塞の後遺症で「高次脳機能障害」と言われました…。



《回答者》

◆脳神経外科

貴志川リハビリ
テーション病院
亀井 一郎 院長

A

「高次脳機能障害」、最近よく耳にする言葉ですね。

まず、たとえ話ですが、海洋生物の頂点に立ち、体力的にも同等のホオジロザメとシャチが闘うとどちらが勝つと思いますか？ 答えはシャチです。何度挑んでもホオジロザメはシャチに勝てません。理由は、サメは本能で活動しますが、シャチにはコミュニケーション力を駆使した社会性があり、家族で協力して闘うからです。この社会性を維持する能力を高次脳機能と考えるください。

脳損傷後、リハビリにより運動能力は改善しても、社会性を失ったままでは人間は社会に

戻れません。脳梗塞や脳外傷により被害を被った脳の部位によって、会話能力を失ったり(失語)、見えていても聞こえていても物事を認識できなくなったり(失認)、企画力や着衣などの手順がわからなくなった(遂行機能障害や失行)、視界の左半分を無視してしまった(その患者さんにとって左半分の世界が無い! : 左半側空間無視)、相手を思いやる気持ちを持てなくなったりします。

このような高次脳機能障害を克服するにはリハビリテーション治療が必須になるので、高次脳機能訓練は症状に応じて様々あり、社会復帰を目指す患者さんを支援します。